

海洋教育パイオニアスクールプログラム「海とつながる 2019」

7年生 塩浜ふるさと防災科「海の中の考古学」

“世界ふしぎ発見！”
に出演した

水中考古学者 やまふねこうたろう 山船晃太郎さん 講演

～「Mr.沈没船」と呼ばれるほどの水中考古学のスペシャリストから学ぶ

昨年11月2日のTBS「世界ふしぎ発見！」では、若き日本人考古学者である山船晃太郎さんに密着し、アドリア海に眠り続ける沈没船の調査をするという内容で放送された。ご覧になりましたか。その山船さんが2月10日、塩浜学園に来航し、7年生に講演をしてくださった。

子供のころからインディジョーンズが好きだったという山船さんは法政大学文学部史学科を2006年に卒業後、水中考古学においては世界一と名高いアメリカの「テキサス A&M 大学」に入学（タイタニックの沈没船調査もした有名な調査機関）。アメリカ人ですら通るのが難しいとされる狭き門を通過し、見事日本人初の水中考古学博士となった経歴の持ち主です。

“水中考古学”に関することを分かりやすく、大変興味深い話をしてくださったので生徒は釘付けでした。世界で活躍しているだけあって好奇心、考え方、生き方のスケールの大きさは違うなあと感じさせました。



【生徒の感想】

・沈没船がタイムカプセルというところにワクワクした。一千年前のことが現代になって、水中考古学者の手によって発見され、3D化することによって未来につながっていくと考え、昔や未来の人たちと心が通じ合った感じがして感動しました。一緒に生活するとき、「笑顔が一番大事」ということが一番心に残りました。

・私は元々歴史に興味があり、特に古代文明についてもっと知りたいと思っていました。お話を聞いて水中考古学は歴史に関わる仕事なんだと初めて知りました。「好きなことを仕事にできる」ということはとても幸せなことだと感じて、私も今から好きなことを見つけようと思いました。

・ギリシャには58隻の沈没船があることや他にもクロアチア、ウルグアイ、スペイン、メキシコなどに沈没船があることを知りました。特に驚いたのは、まだ海に299万隻もの沈没船があることです。

・考古学は、昔の人の暮らし、技術力を知ることができると分かり、大変驚きました。陸上より水中の方が保存状態はいいことも知りました。水中考古学に興味が湧きました。
「早すぎることはない。とにかくやってみよう」がものすごく心に響きました。

・初めは水中考古学ってすごく頭のいいひとが机に向かって、いっぱい悩んで・・・みたいな感じを想像していました。講演を聞いて、外国の方などたくさんの人と関われる仕事なんだということを知りました。私の知らない国や海を見てきていて、私もそんな所に行ってみたい!と思ったり、その国をもっと知りたいと思いました。

・この講演会で一番心に刺さった言葉は、「好きなこと、やりたいことを夢にする」です。そのために努力や考えることが必要になってくるので、そこまで出来て好きなことを夢にするなんてかなりすごいと思いました。

